

Biplaneによる下肢動脈撮影の試み

¹湘南鎌倉総合伏見 隆宏¹

Biplaneによる下肢動脈撮影の試み 湘南鎌倉総合病院 伏見隆宏 ●背景・目的 当院では従来下肢動脈の撮影をSingleplaneで行っていたがより多くの情報を1回の造影で得られる方法としてBiplaneでの撮影を試みた。Biplaneで行った127人254例の下肢動脈撮影の有用性の検討を行った。 ●撮影方法 BiplaneのX線管球の角度は右下肢では正面X線管球RA045度、側面X線管球LA010度を目標に設定し、左下肢では正面X線管球0度、側面X線管球LA050度を目標に設定した。 ●検討項目 (1)病変の描出(2)造影剤使用量(3)被ばく線量(4)撮影失敗に対して ●結果 (1)254例中正面方向からは病変が描出できず側面方向から病変が描出できたものが27例、正面方向からのみ病変を描出できたものが21例、血管の重なりにより側面方向からのみ病変が描出できたものが15例あった。(2)Biplaneでは基本的には1回撮影(35ml)であるが、Singleplaneでは正面での撮影と病変の疑われた部分のDSA撮影(15ml)となるため造影剤量は $35\text{ml}+15\text{ml}\times\alpha$ となる。(3)Biplaneでは右下肢で約2.9倍、左下肢で約3.6倍となった。(4)操作ミス、寝台の側面部分の介入、体動などによる撮影失敗が見られた。 ●結論 病変に対しては偏在性病変の描出も含め有用であると考えられる。また使用造影剤の減少や1回の造影での情報量の多さから臨床的にも有用性はあると言えるが被ばく線量の増加があり技術的な慣れも必要であるので症例を選んでの使用が望ましい。